

港北区災害ボランティア連絡会 News



事務局 〒222-0032 横浜市港北区大豆戸町13-1吉田ビル206 港北区社会福祉協議会

TEL 045-547-2324 FAX 045-531-9561

FB 港北区災害ボランティア連絡会

128号

2024年5月

*入会は随時受け付けています。

*あなたの町の防災度を高めるためにお力を貸してください。



今年度も続けます～被災地経済支援活動

第一弾 らくらく市に出店しました

東日本大震災や能登半島地震などの被災地から、特産品を仕入れて販売することで、少しでも被災地の方々の経済的な復興のお手伝いをしたいと始めた、被災地経済支援活動を今年度も継続します。

今年最初の取り組みは、菊名地区センター前で開催された「らくらく市」での販売になりました。今回販売させてもらったのは次の品々です。

【東日本大震災の被災地から】

- ・宮城県牡鹿郡女川町 きらら女川さんの「おからかりんとう（塩味・コーヒー味・りんご味・ゴマ味・ずんだ味・さつまいも味・ネギ味噌味）」
- ・岩手県陸前高田市 作業所きらりさんの「お手軽ごぼうくん」「スティックりんごさん」「チップスりんごさん」
- ・宮城県石巻市（牡鹿半島） くじらのしっぽさんの「塩蔵わかめ」

【能登半島地震の被災地から】

- ・石川県七尾市 みりの園さんのポン菓子「でかぼん（白米・玄米・マカロニ）」
- ・石川県鹿島郡中能登町 つばさアドニスウイングさんの「とりや味噌」

仕入数が比較的少なかった「でかぼん」「とりや味噌」「塩蔵わかめ」「お手軽ごぼうくん」は早くに完売となりました。定番の「おからかりんとう」「チップスりんごさん」「スティックりんごさん」も相変わらずの人気です。全て、個人的に「かかせないおやつ」になっています。

今回初めて販売した「でかぼん」ですが、どれも美味しかったです。特に「玄米」が玄米の風味がしっかり生きてほのかに甘い、実においしいポン菓子でした。

これからも機会のあるたびに購入・販売して、少しでも被災地の皆さんのお力になりたいと考えています。港北区災害ボランティア連絡会が販売しているところをみかけたら、ご協力お願いします。

(中島)

ここから届きました

【東日本大震災の被災地から】



【能登半島地震の被災地から】



能登半島地震・被災地からの報告 ～災害救援レスキューアシスト FaceBookから

5月8日(水)

令和6年能登半島地震災害支援活動 珠洲市

【活動人数】レスキューアシスト 3名 奈良県防災士会1名

【活動内容】海岸清掃廃棄物積み込み1件 貴重品探し1件

技術系NPO会議、珠洲市NPO会議1件

本日の珠洲市は朝から雨で気温が低く肌寒い一日となりました。

先日学生達と集めた海岸清掃ゴミをトラックに積み込む活動をさせていただきます

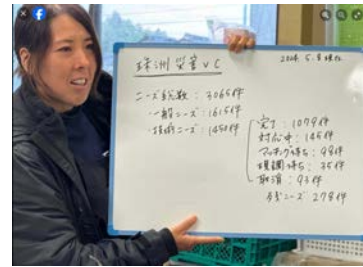
昼前からは避難先から帰られた住人さんが家から持ち出したい物を一緒に取り出させて頂きました。

また午後からNPO会議があり課題などを議論致しました。

ゴールデンウィークを過ぎてボランティアセンターにも各団体にも人手が足りない模様です。

夏にももしも他の場所で水害などが起きたらたくさんの依頼だけが残るほとんどの団体が初期対応の為珠洲市を離れる事が予想されます。

もし時間がある方は是非もう一度石川県のご支援をどうかよろしくお願ひします



2024年 5月7日

令和6年能登半島地震災害支援活動 珠洲市

【活動人数】レスキューアシスト 3名

【活動内容】現場調査 14件 社協打ち合わせ 1件

4月15日で珠洲市の緊急修理の申し込みが締め切れ屋根業者などによる屋根被害のブルーシート張りが終わりました。

それに伴い非住家を含めてブルーシート張りや張り直しのニーズが日毎に増えて来ています。特に自宅の屋根にシートを張って一度は雨漏りが止まっていたがその後日差しや強風の影響で雨漏りが再発するなどの現象が起きて始めています。

震災から5ヶ月目に入っていることを考えれば経年劣化が進んできても仕方の無い時期になっています。

私たちの活動も先月から少しずつ屋根案件が増えており、今後の予定も半数以上が屋根対応となってきました。

今後、まだまだ増えていく事が予想できます。

近隣を見渡しても屋根の修理が始まっているお宅は少なく、この状況が短期間で解消するようには思えません。

工事が進まない理由は1つではなくいくつかの要因が重なる事もあるでしょう。しかし、雨の季節はもうそこまで来ています。

シートの劣化のピークと梅雨や台風の時期が重なる事で二次的な雨漏り被害も予想しなくてはならなくなってきました。

またこの時期は全国で水害などの発生も多い季節です。現在能登半島に入っているNPOも初動で動かなくてはならなくなる団体も出てくるでしょう。

そうなれば対応はますます遅れてしまいます。

残された被災住人さんは耐えることしかできません。これからの季節に災害が起きないことを祈りつつ、考えられる事態を想定して残された時間を有効に使いたいと思います。

災害支援レスキューアシストによる、能登半島の3月4日から4月4日、4月5日から5月8日の記録写真です

<https://www.youtube.com/watch?v=MyjuGub9a5c&t=94s>

https://www.youtube.com/watch?v=FoK_724rlbo



3/4~4/4



4/5~5/8

知ってるつもり マグニチュードと震度

地震が起きると、マグニチュードと震度が発表されます。震度は「どれだけ揺れたか」を示すもので、平成8年3月までは震度は気象庁の職員の方の「体感」で決められていたそうです。いまでは、全国4,000箇所以上に設置されている計測震度計で自動的に判定されています。右のイラストは仙台管区気象台が学習教材として提供しているもので、震度の違いがとてもよくわかります。しかし、震度はなぜ「7」までしかないのでしょうか。震度は、先に書いたように計測震度計で自動的に判定されているので、値によっては「震度8」もありえます。しかし、「震度7は最大級の被害をもたらすものと認識されており、防災対応も最大級の措置が取られるため、それ以上の震度を出しても意味がない」などの理由から、現時点では震度7以上は設定されていないということです。

一方、よくわからないのがマグニチュードです。マグニチュードに震度が比例しないのがわかりづらい原因かもしれません。これは、電球に例えるとわかりやすいと言われます。

60Wの電球より100Wの電球のほうが明るいはず。このワットにあたるのがマグニチュードです。やはり、マグニチュードが大きいほど、震度も大きくなるはずなのです。しかし、震度＝明るさと考えると、震度がマグニチュードに比例しない理由がわかると思います。

10m先にある100Wの電球より、目の前にある60Wの電球の方が明るいですよね。つまり、震源からの距離や震源の深さによって、同じ地震の規模（マグニチュード）でも震度が大きく変わってくるということです。マグニチュードが「1」かわると地震の規模は31.6倍になります。「2」違うと地震の規模は「 31.6×31.6 」倍、つまり1000倍も大きくなるということです。

気象庁のHPにはたくさん「教材」があります。時々、見てみるとよいですね。

(中島)

震度とマグニチュード 仙台管区気象台

【ステップ1:震度】

説明 震度と実際におきそうなこと

<p>0</p>  <p>【震度0】 人はゆれを感じない</p>	<p>1</p>  <p>【震度1】 ○室内で静かにしている人の中には、ゆれをわずかに感じる人もいる</p>	<p>2</p>  <p>【震度2】 ○室内で静かにしている人の中の大半が、ゆれを感じる</p>
<p>3</p>  <p>【震度3】 ○室内にいるほとんどの人がゆれを感じる</p>	<p>4</p>  <p>【震度4】 ○ほとんどの人がおどろく ○電灯などがぶら下げているものは大きくゆれる ○窓のわかい窓物が倒れることがある</p>	<p>5弱</p>  <p>【震度5弱】 ○大巾のひらがおそそしく感じ、物につかまりたいと思う ○棚にある食器や本が落ちることがある ○固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある</p>

震度とマグニチュード 仙台管区気象台

【ステップ1:震度】

説明 震度と実際におきそうなこと

<p>5強</p>  <p>【震度5強】 ○物につかまらなさと歩くのが難しい ○棚にある食器や本で落ちるものが増える ○固定していない家具が倒れることがある ○弱いブロックべいが倒れることがある</p>	<p>6弱</p>  <p>【震度6弱】 ○立っていることが難しくなる ○固定していない家具の大半が移動し、倒れるものや、倒れるものが増える ○壁のタイルや窓ガラスに割れて、落ちることがある ○ゆれに強いタイプの木造建築物は、かわらが落ちたり、建物が傾いたりすることがある</p>
<p>6強</p>  <p>【震度6強】 ○はわないと動くことができない。飛ばされるものもある ○固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える ○ゆれに強いタイプの木造建築物は、傾くものや、倒れるものが増える ○大きな地震割れや地すべりがおきたりする</p>	<p>7</p>  <p>【震度7】 ○ゆれに強いタイプの木造建築物は、傾くものや、倒れるものが増える ○ゆれに強いタイプの鉄筋コンクリートの建物は、倒れるものが増える</p>

仙台管区気象台HPより引用
https://www.jma-net.go.jp/sendai/knowledge/kyouiku/eqvol/i_m_ws.pdf

【防災コラム】 防災一口メモ 「めがね、入れ歯」

災害時に無くては困るものはいろいろありますが、近視の人にとってはメガネもその一つ。メガネが無ければ完全に要支援者になります。大きな揺れでも飛んでいかないように、私は夜寝るときは枕の下に入れます。最近の枕は大きいし、柔らかいのでメガネがつぶれる心配はありません。

でも困るのが入れ歯の置き場所。まさかこれも枕の下とはいかず、洗浄液につけておかなくてはならないので解決方法がありません。洗面所を整理しておき、揺れていろいろなものが散乱しても探しやすいようにするほかなさそうです。ただし非常用備品に入れ歯洗浄剤を入れておくことは必須です。

(宇田川)

珠洲の現実

～地震で止まった時間とボランティアの受け入れの現況

と き 2024年6月15日(土) 10時～11時45分

場 所 港北区福祉保健活動拠点(港北区社会福祉協議会) 3階

講 師 (一社)日本ボーイスカウト神奈川連盟常任理事
横浜第79団ローバー隊長 伊藤郁夫様

1月の発災から4か月以上が経とうとしています。被災地では復旧作業(まだ復興ではありません)が徐々に進んでいます。しかし、能登半島の最端にある珠洲市では、まだ水道の完全復旧の目処もたたず、道路も港も多くの場所が1月の発災以降、時間が止まったような状態になっています。ボーイスカウトは過去に2度、日本スカウトジャンボリーを珠洲市で開催させていただいています。お世話になった珠洲市を少しでも支援したいと、ボーイスカウト日本連盟では、ジャンボリー開催の地「リフレッシュ村・鉢ヶ崎」にスカウト関係者のボランティア拠点を開設することにしました。

伊藤さんは、その開設準備から運用まで、数ヶ月にわたり現地で支援活動に従事されています。今回は伊藤さんの目を見た

- ・珠洲市の現実
 - ・ボランティアを恒常的に受け入れることの困難さ
 - ・今、そしてこれから必要な支援
- などについて、お話をいただきます。



zoomによる聴講も可能です。申込はホームページ (<https://kohoku-saibora.jimdofree.com/?logout=1>) または右上の申し込みフォーム二次元コードからお申し込みください。(事務局宛FAXでも受付します。)

【編集後記】

- 屋根に上ったり、ブルーシートを張ったりする女性がいました。「すばらしい」「怪我をしないで」「ありがとう」の言葉しか出ません。私が今若くても無理です。(付岡)
- 石川県輪島市で梅雨に備えてブルーシートが配布されているそうです。その記事について、私の友人の川島さんがFaceBookで「ブルーシートを屋根に上がって張るのはとても危険です。更には瓦やブロックなどを重しに使うのも危険です。」「せめて配る時に『屋根には張らないで屋内に使う』と説明してくれていることを祈るばかりです。」と投稿していました。確かに気になります。(中島)